

浄土

monthly JŌDO

2021
May

5

令和3年

vol.87

no.953

〔浄土アーカイブ〕

“^{せい}「生」中村辨康”を語る 赤坂明翔



〔特別マップで二目瞭然〕
インド紀行 ベナレス 佐藤良純
〔日本の街道探訪〕
東海道の「舟渡し」と「徒歩^{から}渡し」 森清艦

法然上人讃仰会

古物漂流

文と写真 ● 三宅政吉
(グラフィックデザイナー)

連載4 染付竹林七賢図広東碗

古伊万里の染付の器が好きでいろいろと集めているが、図柄が多岐にわたっている。気に入ったからと、あれもこれもと集めてもビンボー人にたいしたものが増えるはずもない。それで図柄を竹林七賢にしぼって集め始めた。それでも買うのは財布と相談しながらで、二千円を超えるものは、よほどのことがないかぎり手を出さないことにしている。

この連載の前の「貧乏骨董」でも竹林七賢の染付について、俳人の永田耕衣の言葉を引用して触れたことがある。

写真の碗は五〇〇円で入手。掘り出し物と言えるかもしれない。形としては広東碗と呼ばれるものである。高台が高く、胴部が外に開いている。

陶磁器の碗は、もともとは酒やお茶などを飲むための器で、飯を食べる際には漆器碗が使われていた。現在、飯碗のことを「茶碗」と呼んでいるのはそのためである。陶磁器の碗が飯碗として使われるようになったのは、一七世紀後半以降と考えられている。この碗はおそらく江戸時代中期からすこし下ったあたりのものだろう。

碗の胴部に描かれた賢人は三人（永田耕衣曰く、

省略の妙法）。見込みには口縁部から底に向かって竹の葉が下がる。底には二重線で円が描かれ、胴部と同じような土塊か、植物が描かれている。高台に○×の連続紋、内には「富貴長春」のおめでたい文字が書かれている。江戸期の伊万里は輸出品として芸術性の高い高級品がある一方で、大量生産により、庶民向けの低価格の日用食器も全国に出荷されていた。この碗もそういった日常生活の中で使われていた飯碗なのだろう。

口径14cm、高さ7cm、高台径7.2cm、重量287g、手にするとずっしりと重い。



高台内に書かれた富貴長春のおめでたい文字。

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 11

インド・釈尊あれこれ紀行

ベナレス



ベナレスのツアーコースの多くは、ゴドリア交差点でバスをおり、ダシャーアシュバメーダガートへ向かう

沐浴する人々

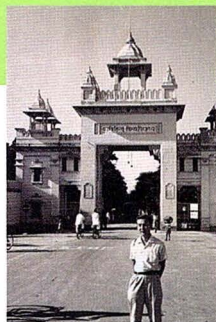


世界中からの観光客



ベナレス・ヒन्दウ大学
の正門前に立つ著者

ベナレスはカーシー（光り輝くの意味）とも呼ばれ、ガンジス河の北西側にあり、西からの支流ヴァルナ川と町の南側からの支流アッシー（かつてはよんどだブ川だったが、現



インド渡航歴40回超！

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.11



水嵩が高くヒンドゥー教寺院がだいふ沈んでいる時のガート。1958年当時



中央右下に写っている半分沈んだ建物は上のモノクロ写真に写っているヒンドゥー教の寺院。空が白く煙っているのは右奥にある火葬場から立ち上る煙のせい。平成26年筆者撮影

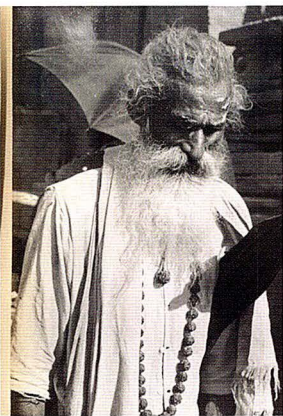
在は流れている）にちなんでヴァラナシと呼ばれる。

ガンジス河の名前 ガンガー Ganga の語源はわ

らない。ヒマラヤ山脈の中部を水源としベンガル湾にそそぐ全長2,510 km、流域97万5,900キロm、インド最大の河である。伝説ではシヴァ神の頭から噴き出す水がもとで、水源地はガンゲトリ、標高6,614メートルにある谷である。そして、インドのすべての河川は最も聖なる河であるガンジス河につながっていると考えられている。沿岸には多くの聖地がありプリンダバン、アラハバード付近のクンプメラ（お祭りの時は何百万の巡礼者が集まる）が有名である。また、ジャムナ河などと合流して広大な平原を流れ、豊かな農耕地に広がっている。インド文明はこの流域を中心にして東西に広がっていったのである。ヒンドゥー教徒はこの河で沐浴すると一切

聖地ベナレスには修行者が少なくない

ベナレス河畔で毎晩行われる火祭り。かつてはヒンドゥー寺院内で行われていたが、いまは河畔で行われている

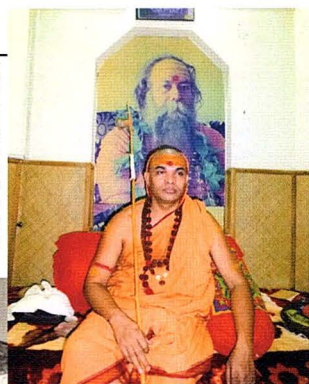


1年に1回行われるインターナショナル ヨーガデー。インド各地で同時に行われ、ベナレスでは河畔で行われる

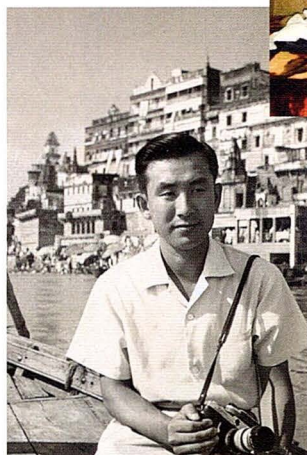
の罪がなくなり、死んだあととは天国に生まれると信じ、死を待つ人々を受け入れる多くの宿があり、映画の題材ともなっている。

ベナレスの歴史は古く、紀元前6世紀にこの地を首都としたカーシー王国はガンジス河沿岸に16ある大国の内でも最大の勢力を誇った。紀元前4世紀にはマウリヤ王朝、4世紀にはグプタ王朝、6世紀にはカナウジ王朝、7世紀前半にはハルシャ王（戒日王）がヴァルダナ王朝の一部を形成した。その後、イスラーム教徒の王朝が何代か続き、18世紀にはイギリス東インド会社の進出によりイギリス領となった。

町を巡るいくつかの巡礼路があり、5ヶ所の聖地と川辺（ティールター）を巡るパンチャティールタヤートラが一般的な巡礼コースである。最南端のアッシーガート、中央のダシヤアシュヴァメーダガート、最北端の



ベナラスにしかない
ダンディバラモン。
持っている竹の棒を地面
につけることはしない



1959年、留学中にベナレスを訪れた筆者。当時、船代はなく、“無料”だった

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職。大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に「ブツダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

アディケーシヤヴァガートを経て南下してパンチャガンガート、マニカルニカガートを回る。

ダシヤーアシユバメーダガートには夜、多くの巡礼者が集まり、灯火を鈴の音にあわせてひたすら廻すアールテイの儀式が毎晩行われる。特定の先祖供養もできる。これは日本の施餓鬼会と同じである。そして、プラサーダ（供養）として主に甘いお米をいただける。ベナレスにはダンディバラモンと呼ばれる、ここにしか住まないバラモン僧侶の集団がいる。竹の棒を持っており、決して地面につけてはいけない。今は布の袋に入れているがそれでも地面には置かない。

レスラーと呼ばれる人々の集団もいて、日々の訓練にいとまもない。今日、ベナレス製の絹も質が良いと評判でサリー（女性のまとう布）をお土産にする人も多い。

浄土

2021/5月号 目次

連載インド紀行⑪「ベナレス」	佐藤良純	1
『浄土』アーカイブ “「生」中村辨康” を語る	赤坂明翔	6
寺々刻々⑩ サリン事件	鶴飼秀徳	12
ぶつぶつ放談「他宗を知ろう・天台宗 その3」		16
漫画「浄土宗のお祖師様」二祖聖光上人④	ぐんじまん	25
連載小説「式子内親王遺文」第2回	石丸晶子	28
法然上人・式子内親王時代の出来事	編集部	36
微風吹動 多様性と「共生」	名和清隆	38
江戸 日本の街道探訪 第4回	森 清鑑	42
みんなの境内 薬師如来御開帳ほか	東谷健昭	51
編集後記		52

表2 古物漂流④	三宅政吉
----------------	------



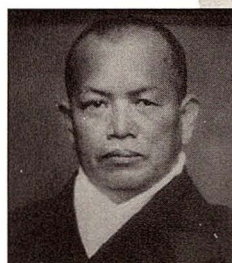
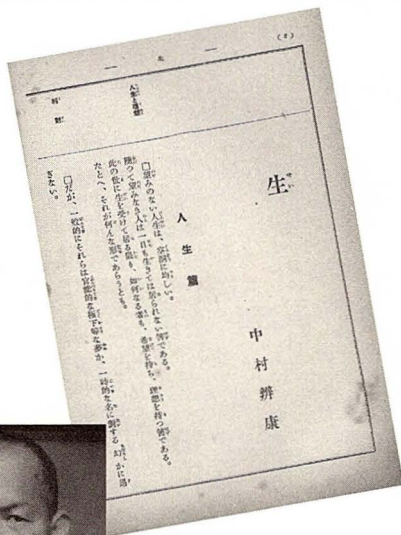
表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙写真＝若林隆壽

アートディレクション＝近藤十四郎

“生”^{せい}中村辨康 を語る

赤坂明翔



中村辨康師と昭和11年法然上人讃仰会発行『浄土・念佛読本』の師の原稿の扉頁

《人生篇》

令和三年二月五日。

私は、携帯電話の向こう側の編集長に『浄土』について語っていた。以前より、創刊当初の『浄土』には、今とは違う何かがあると感じていたが、編集長は、「今、伝えてくれた素直な気持ちを原稿にして欲しい」と、身に余るお言葉をかけてくださった。

『浄土』が好き。だからこそ、その想いのありのままを、ありのままに綴っていききたい。

○
望みのない人生は、空洞に均しい。

随って望みなき人は一日も生きては居られない筈である。

あかさか・めいしょう 1990年、福島県伊達郡桑折町生まれ。大正大学大学院修士課程(浄土学)修了。福島教区中央組無能寺徒弟。

中村辨康先生の「生」は人生篇から始まる。

先生は明治十七年(一八八四)、静岡県清水の實相寺の生まれ、分かりやすく言えば、かの中村康隆猥下(わいげ)の師父である。この「生」が書かれたのは、昭和十一年(一九三六)、御年五十二歳、前年まで浄土宗宗務所の教学部長を務め、布教の最前線に立っていた頃である。

人生に望みがなくては生きてはいけない。ただ実際は、「先ずは金か。名か。之が兩大関」だという。金がなければ金に憂い、金があつても金に憂いてしまう。時代が変わつてもこの本質は変わらない。だからこそ辨康先生は、いたずらに貪欲のまま生きることが本当の人生なのか、と読者に問いかける。

事は簡単なのである。即ち、人間が本当の人間になること、人間が本当に人間らしい生活(せいけつ)をすること、其事である。

○

昭和十一年といえば、二・二六事件が起こり、更なる戦時体制に入っていく時期である。国民は不安の真つただ中にいた。そんな折に、世の中には空前の仏教ブームが起きていた。友松円諦師のラジオ放送「法句経」を皮切りに、若者に仏教を呼びかけ、若者が仏教を求めたのである。雑誌『浄土』も人気を博し、法然上人鑽仰会(せんぎやうかい)のメンバーは、この現象を「仏教ルネサンス」と呼んだ。

当時の辨康先生は、「人間が本当に人間らしい生活(せいけつ)をすること」を、特に仏教の報恩生活(ほうおんせいふく)や念仏信仰による安心立命(あんしんりつめい)の生活と考えていた。ただ「手前勝手(てまえがって)な我儘(わがまま)ばかりしてのさばって居る」のではなく、仏教・浄土教的な生き方をするよう、読者に「精神維新(せいしんいしん)」を働きかけたのである。人々の意識を変えることで、幸せて豊かな生活が、個人から家族・社会・

国家・世界に広がっていく、そんな立場であつたろう。しかしながら、昭和初期は複雑で混乱した時代であつた。浄土宗僧侶も徐々に戦時体制に組み込まれ、「人間が本当に人間らしい生活^{せいかつ}をすること」が、戦争に突き進んでいく国家に奉公すること、そこに繋がってしまったことは否定できない。

○

創刊当初の『浄土』を読み返すと、多様性が求められる令和時代には、やはりそぐわない部分がある。ただ同時に、読めば読むほど、『浄土』に込められた信仰の熱気が、私の胸を突いたのも事実である。特に辨康先生は、昭和十年から十三年間、誌上で悩める人々の投稿に答える信仰相談をおこない（掲載しきれない相談は私信で答えていた）、さらに積極的に信仰座談会や信行道場などを開催し、僧侶問わず人格交流を通してながら、人々の信仰を

育てられていた。そこには常に「生きる」と意識した脈打つ信仰があつた。

歴史を反省し、歴史に学ぶ。

僧侶として大切な何かを紐解きたい。

『念仏篇』

○

「お念佛からはじまる幸せ」

令和六年（二〇二四）、浄土宗は開宗八五〇年を迎える。この記念キャッチコピーは、一見とつつきにくい印象を持ちそうだが、私にとつては、「おお！ ついに来たか！」と、心の声^{こゝろのこゑ}が漏れだす勢いであつた。なぜなら八十五年前、中村辨康先生は「生」の中で、すでに次のように語っているからだ。

^{わがしな}私達は^{ねんぶつ}念仏に^よ依つて^{しだい}次第に^{あか}明るくなり^{ほん}本

とう
當に幸福になり、随したがって永遠えいゑんの生命せいめいを自じ覚かくし、人生最高じんせいさいこうの幸福こうふくを味あじうことが出来るのである。

この辨康先生の言葉には妙な力強さがある。

○

大正六年（一九一七）、御年三十三歳、辨康先生は光明会の別時念仏会に参加し、弁榮聖者に帰依した。血氣盛んな三十代前半、生きた念仏信仰を求めて弁榮聖者のもとを訪ねたのであろう。聖者没後は、土屋觀道上人の真生同盟、椎尾辨匡先生の共生会にも参加した。辨康先生は信仰運動を通して得たものを法然上人鑽仰会の事業に活かし、信仰座談会や信行道場では、若者相手にその信仰をぶちまけていたという。極め付きは、待てど暮らせど、誰も浄土宗の信仰入門書を書かないからと、終に自ら『信仰読本』を著したのである。好

評に好評を重ねて、後に改訂版が鑽仰会から出版された。

○

〔念仏ねんぶつして居ると〕自おのずから天地てんちの大恩大徳だいおんたいとくを感かんじて来る。闇くらい氣持きもちちが薄うすらぎ、明あかるい氣きが伸び上あがって来る。それは何故なぜだろうか。

辨康先生の念仏觀は間口が広い。大宇宙（法性）には一切のものを生かそうとする綜合的意思が働いている。天地全体に活力が満ちており、それに呼応するよう、人間は誰しも「より永く生きたい（永世）」「よりよくなりたい（向上）」と望んでいる。一見浄土宗離れした考え方だが、この宇宙的な意思を人格化したのが、阿弥陀仏の本願だという。つまり本質的な意味で、人間の最大欲求である「永世・向上」が阿弥陀仏の「無量寿・無量光」と完全に一

致するから、念仏すると如来の大生命に包まれ、明るくなり、生きる力が湧いてくるというのである。

辨康先生の広範な念仏観をここでは語りつくせないが、読者の中には、浄土宗義として如何なものか、と思った方がいるかもしれない。それは先生も覚悟の上であった。

○

辨康先生は、『教学週報』（昭和十二年一月一日発行）において、法然上人鑽仰会の立場を語っている。

「鑽仰会は法然上人の人格鑽仰を中心として、読者は浄土宗徒に限らず、宗教を求める全ての人々に呼び掛けている。現代人が一人でも多く法然上人に親しんで頂けるよう、純粋な浄土宗義よりも、広く自由な立場で表現したいと思うのである。されど宗義を無視して、

現世主義を肯定しようとは思わない。現在生活にも重点は置くけれども、それは未来往生の安心立命という意味で、現在生活の充実をいうに過ぎない。異端と非難される箇所もあるかと思うが、活き活きとした生氣と明朗な光を発揮できるのである。諸大徳には赤子の鑽仰会が健康に育つよう御援助と御指導を切に御願いしたい。」

（筆者要約）

昭和初期は貧富の格差が激しく、今よりも切迫感や閉塞感が漂い、一生懸命に努力しても、それが報われない世の中であったかもしれない。だからこそ、念仏を称える信仰生活によって、阿弥陀仏の本願（我々を生かそうとする増上縁力）に引き立てられ、暗い気持ち明るくなり、理想の浄土へと往き生きることが出来ると、法然上人の念仏を広く大胆

※中村先生の原稿「生」の全文を当会HPのPDFで読むことができます。詳しくは51ページの「みんなの境内」をご覧ください。

に捉えて、辨康先生は説いたのである。これこそ悩める者の念仏で味わう「人生最高の幸福」であり、偉大なる信仰の世界といえよう。

○ 「お念佛からはじまる幸せ」

これは単なる言葉ではなく、念仏の体験をもとに、浄土宗僧侶が一丸となって育て、外に発信していくべき信仰の姿ではないだろうか。かく言う私は毎日悩んでばかりで恐縮なのだが、ここからスタートする我々の背中を、辨康先生は力強く押してくれるに違いない。さあ皆で進もう、浄土への道を！

中村辨康 プロフィール

ながむら・べんこう 明治十七（一八八四）年〱昭和三十四（一九五九）年。静岡県生まれ。實相寺三十一世。浄土宗教学部長、増上寺執事長。大正十二（一九二三）年より宗会議員となる一方、光明会・共生会等の信仰運動に参加した。また真野正順等と共に法然上人顕仰会を創立、雑誌『浄土』を発刊した。世寿七十五歳。著書多数。



『浄土・念佛読本』と師が浄土宗の信仰入門のために書き下ろした『信仰読本』（昭和10年改訂版）

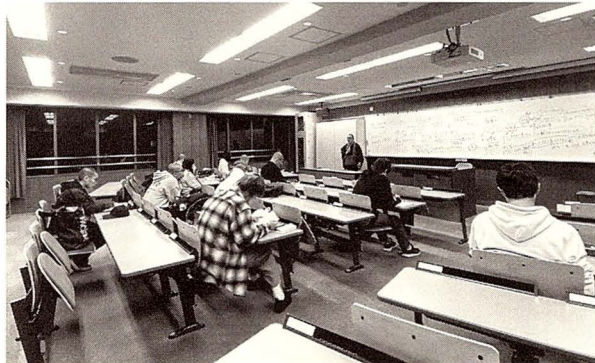
『寺院消滅』『教養としての仏教』著者

鵜飼秀徳の

寺々刻々

既成仏教の風景化が生んだサリン事件

佛教大学での講義の様子（外部講師を招いて）

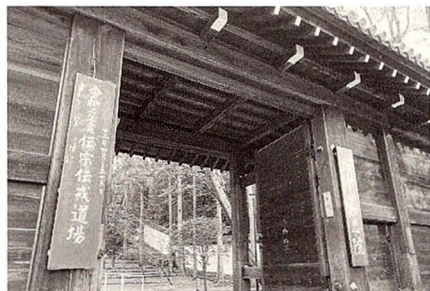


本稿を、春の彼岸の合間に書いている。今春は、オウム真理教によって引き起こされた地下鉄サリン事件の被害者の、27回忌の節目にあたる。1995年3月20日、カルト教団の無差別テロによって14人が死亡し、およそ6300人が重軽傷を負った。

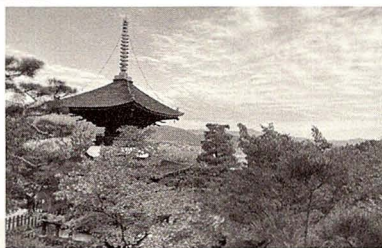
当時私は都内のテレビ局で報道記者の助手をしていた。地下鉄サリン事件が勃発すると、昼夜を問わずオウム事件の取材などに忙殺された。サリン現場や教団施設、殺害された坂本堤弁護士関連の地など様々な現場を、社会部記者とともに駆け回った。

その後は新聞社に入社し、オウム裁判を取材した。長年オウム報道に関わったから、事件に特別な思いを抱いたかといえば、そうは単純な話ではない。じつは私は、彼らとは「パラレルワールド」にいたと思っている。

私は当時、都内の大学に通う学生で、少僧都養成講座（当時）の受講過程にあった。つまりは、私もオウム信者も同じ仏教の出家修行者同士であった。違いといえば、伝統的な仏教教団に所属しているか、新宗教のカルト教



知恩院での伝宗伝戒道場



「地域の寺が単なる風景」
では困りものだ

団の信者か。客観的にみれば私も彼らも、さほど変わり
はなかったかもしれない。

オウム事件が明るみになるや「出家」「修行」「ヨガ」「瞑
想」などオウム真理教が取り入れたものは、一概に怪し
いものとされ、世間から厳しい目を向けられた。全国に
あったヨガ教室はオウム事件をきっかけに、ほぼ消滅し
た。私も修行を終えて、青い顔をした坊主頭で街に出た
とき、社会の視線が過剰に気になり、ずっと俯き加減で
歩いた記憶がある。私と同じ気持ちを抱いていた養成講
座同期もいたに違いない。

では当時、伝統仏教教団は事件をどう見ていたかとい
えば、「ほぼ沈黙」に等しかった。修行中、オウム事件
に関する話題に触れる仲間は、あまりいなかった。指導
役の僧侶も、講義に来る先生も沈黙した。しかし、伝統
仏教はオウム事件に無関係ではなかったし、今でも無責
任ではいられない。

「日本のお寺は、単なる風景に過ぎなかった」
事件後、あるオウム信者が漏らした言葉だ。オウムが

【問1】 あなたはオウム真理教事件に関心を持っているか

- 1 持っている (56%)
- 2 持っていない (20%)
- 3 どちらでもない (24%)

【問2】 あなたがオウム事件を知ったのはいつか

- 1 死刑執行の報道を受けて (3%)
- 2 1年以内 (2%)
- 3 3年以内 (5%)
- 4 5年以内 (10%)
- 5 5年以上10年未満 (36%)
- 6 10年以上前 (21%)
- 7 忘れた (23%)

【問3】 オウム真理教事件の死刑囚について、死刑にすべきは誰か

- 1 教祖・麻原彰晃 (松本智津夫) のみ (15%)
- 2 死刑囚である信者全員 (64%)
- 3 そもそも死刑制度に反対 (10%)
- 4 その他 (11%)

【問4】 あなたはカルト教団に勧誘を受けたことがあるか

- 1 ある (11%)
- 2 ない (74%)
- 3 カルトかどうかは分からないが、怪しげなセミナーなどに誘われたことがある (15%)

勢力を拡大した1980年代、日本は経済的な豊かさを手に入れた。しかし、日本人の全員が全員、幸福感に浸っていた訳ではない。貧困、格差、差別、暴力……。救済を求める人は少なからずいた。

そうした心の受け皿に、地域の寺がなれなかったのだ。若者は、伝統的仏教では物足りない、と考え「本式の救済」を求めてオウムに走ったのである。事件当時のオウム信者の数は、2万人にも及んだ。近年はオウムに関する話題も、仏教教団のなかではほとんど聞かれなくなった。教祖や教団幹部らの死刑執行が2018年に終わりますます、過去を反省する機会が奪われている。

私は2つの大学で授業を受け持っているが、例年オウム事件についてのアンケートを実施している。彼らはどう事件をとらえているのか。

質問と回答分布は上段の表の通り。有効回答数は624であった。注目すべきは【問4】だろう。「カルト教団からの勧誘を受けた」「怪しげなセミナーなどに誘われたことがある」を合わせれば3割近くになった。

サリン事件の現場となった霞ヶ関駅



うかい・しゅとく。1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞・雑誌記者を経て2018年にジャーナリストとして独立。「仏教界と社会との接点づくり」をテーマに活動を続ける。最新刊に『お寺の日本地図 名刹古刹でめぐる47都道府県』（文春新書）。東京農業大学・佛教大学非常勤講師、一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事。京都教区正覚寺住職。

オウム事件後しばらくは、新宗教の勧誘は影を潜めていたかのように思えた。しかし、実態としてはSNSを使った勧誘やダミーサークル、ボランティア団体などの体で、若者に忍び寄っていると言われている。

麻原の死刑執行後も絶対的帰依の姿勢を見せている「アレフ」。アレフとは距離を置いているものの麻原への依存度は高い「山田らの集団」。一見麻原色を払拭したかのように見せている「ひかりの輪」。後継団体の信者数は2000近くいると見られ、年々増加傾向にある。

オウム事件後、**『完全消滅』**したヨガ教室も、最近はどこでも普通に見られるようになった。同時にそれは、オウム事件の記憶が薄れてきていることを意味しているのかもしれない。

かつては存在しなかったSNSを使って、カルトが水面下で勢力を伸ばしている可能性は大いにある。日本の寺が再び、「**『単なる風景』**」にならぬよう、われわれ仏教者は肝に銘じなければならない。

浄土宗の青年僧侶に伝えたい

ぶつぶつ放談

天台宗、3回目（最終回）は葬儀儀礼について伺った。そして死後をどう説くか、仏教諸宗派の祖師方を輩出した天台宗ではどう捉え、どう伝えているのだろうか。

（聞き手・村田洋一 編集・服部祐淳）

◆登場者◆

坂本観泰



さかもと・かんたい

1964年 東京都世田谷区生まれ。知行院住職。学習院大学法学部卒業後、本山交衆（三年籠山）に入行、平成二年延暦寺一山檀那院（非法人）住職拝命。1996年州立バージニア大学大学院にてM.A.取得。全日本仏教青年会理事長、世界仏教徒青年連盟（WFBY）会長代行を務める。現在、天台宗東京教区宗務副所長。

木内堯大



きうち・ぎょうだい

1974年 東京都墨田区生まれ。如意輪寺住職。早稲田大学第一文学部哲学科、東洋哲学専修卒業。大正大学大学院修了。博士（仏教学）。大正大学非常勤講師を経て、大正大学仏教学部特任准教授。天台宗総合研究センター研究員。大学では天台学、及び日本文化と仏教の関わりに関する講義を担当している。著書『日本人のこころのことは最澄』（創文社）、『仏教の教えを築いた人々』（宗教工芸社）他多数。

京戸慈仁



きょうど・じにん

1969年 東京都葛飾区生まれ。西光寺住職。青山学院初等部へ入学後、毎日礼拝堂で聖書を読み讃美歌を歌い、牧師の話を聞く。同大学文学部史学科卒業後、都会を離れ比叡山麓叡山学院へ入学。比叡山坂本は第二の故郷。卒業後は法務の傍ら声明公演などを中心に活動。現在天台宗東京教区教務主任。

他宗派を知ろう「天台宗」③

◆葬儀儀礼と天台の教えについて

司会（以下——）葬儀の際、浄土宗では下炬あこを読み引導を渡し、お念仏を称えて、「極楽浄土に旅立ちましたよ」と話しますが、天台宗ではどのような作法で、そして亡くなった方の行き先をどうお伝えするのですか？

京戸 私の場合ですが、通夜の際は『阿弥陀経』をお読みする、いわゆる「読経式」にします。そして葬儀では法華懺法はつげせんぽうといって『法華経』を中心にします。三礼（経文や真言に旋律抑揚を付けて唱える）を唱えたり、同じように引導をお渡しし、下炬も読みます。

そして、最後には十念といってお念仏を十回お称えするのですが、浄土宗さんはありませんか？

—— おおっ、十念をお称えするのですね！

浄土宗では十念は差定さじょう（式次第）の中でも

頻繁に入りますね。また、同称十念といって、僧俗ともにお称えすることが基本です。

京戸 えっ、一緒にですか！

木内 うちはお称えしますよ。

京戸 そうですか。私の知る限り関東で一緒に称えるのは珍しいと思います。

坂本 檀信徒の集う場ですとか、法話の最後にみなさんで称えているのですが、とてもいいですね。

—— はい、大袈裟ですが、浄土宗は同称十念の宗派です。念仏と一緒に唱える木内さんのお寺では葬儀はどのような差定ですか？

木内 はい、基本的には法華懺法（『法華経』中心）、例時作法（『阿弥陀経』中心）、光明供（真言中心）のどれをするか、という選択になります。そこに引導、下炬、歎徳（故人の生前の業績を讃える）、起甕・鎖甕、奠湯・奠茶きがん・さがん・てんとう・でんちやなどを加えるという形ですね。奠湯・奠茶な

どは曹洞宗の方式から取り入れているかと思
います。

坂本 本来は庭儀式、誦經式、引導式がそれ
ぞれあって、現代では葬儀時間のおおよそ40
分になるように上手くミックスさせて次第、
差定が作られます。このほか念仏回向式など
もありますし、そのお寺でそれぞれです。

——浄土宗とはだいぶ違いますね。

木内 式の終わりにには法話をしますが、来世
觀のベースはやはり浄土教になります。浄土
宗と同じで、「亡くなったら極樂浄土に往生
して、そこで修行して仏になる」というお話
になります。いわゆる西方十万億土の浄土
といったのも、天台では「己心の弥陀」と考
えますので、自分の心に阿弥陀さまがいて、
自分の心に極樂浄土があると説きます。

これって実際、非常に説明しにくいのです。
浄土宗ではそこははっきりと伝えることがで

きますよね。

——はい、明確に伝えられます。

聞いていて思いましたが、ある意味、そう
した間口が広く、かつ複合的で自由な天台宗
だからこそ、様々な宗派が派生していったと
いうことなのでしょう。

木内 そうですね。色々な宗派を生み出した
一番の要因、天台大師の教学は多様でしたが、
そのどの教えをも捨てなかったからでしょう。
選び取るのではなく、全部大事だよと。

最終的には『法華經』でまとめていくので
すが、総じてすべてが大事ということなので
す。さらに最澄上人になれば、「一乗の教え
ならばどれも大事」となる。ですから中国へ
行けば密教も一乗、坐禪も一乗の教えですし、
浄土教も一乗になるわけです。

後に鎌倉時代になると、その人に合った教
えが重視されるようになって、末法の世では

易行の念仏でなければ救われない、と皆さん
独立されていくわけですよ（笑）。

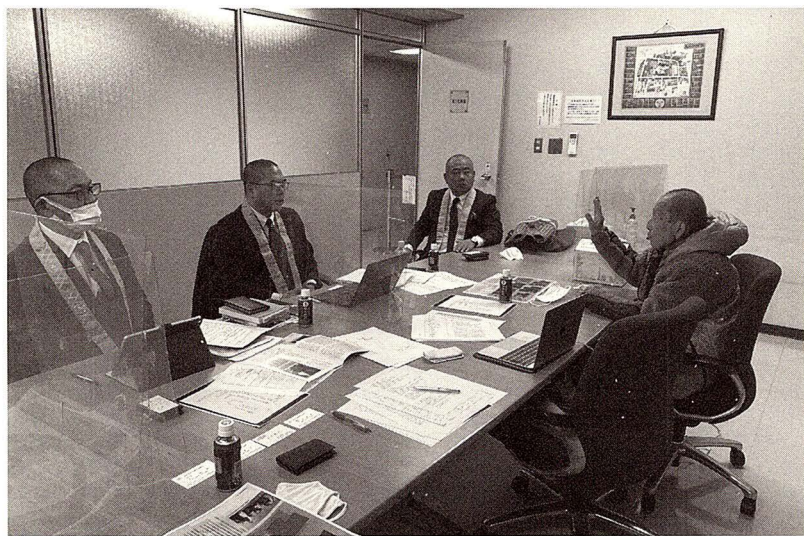
よく言われますが、ユニバーシティー（総
合大学）とカレッジ（単一の学問領域を学ぶ
大学）の違いですね。

——浄土宗など分派していった教団を率直に
どうとらえていますか？

木内 現代では浄土宗の皆様にお世話になっ
ています（笑）。ただ法然上人が開宗された
当時、比叡山からするとやはり天台僧として
見ていましたので、「念仏だけを唱えればい
い、とはいかがなものか」と異論が上がって
いたことは確かです。自行が大事にされてい
ないのではと。

——なるほど。

木内 ただこれも融和されてきて、江戸時代
になると「念仏の教えは素晴らしい」と書き
残す天台僧も出てくるなど、実質的に浄土宗



当会会長（右端）と談笑する三師、奥から坂本師、木内師、京戸師。

を認めていく流れになっていきます。ですから現代でも敵対心は何もありません。

むしろ浄土宗と浄土真宗の関係の方が気になりますよ（笑）。教科書に記述された「親鸞は浄土宗の教えを発展させた」の書き換え問題などもありましたので。こういういい方はおこがましいのですが、親が子供を見るような感覚があるのかもしれない（笑）。

——そうですね（笑）。いくつになっても子供は可愛いと言いますし、お立場からすると当然ですね。

木内 冗談はさておき、それぐらい寛容なのかもしれません。

超宗派で集まる場などでも必ず天台宗から座席が順番に用意されますが、こちらが上だとは誰も思っていないと思いますし、私たちも上席をありがたいとは思っても当然とは思いませんから。

◆檀家との接し方と十念について

——檀家さんとの接し方をお聞かせ下さい。

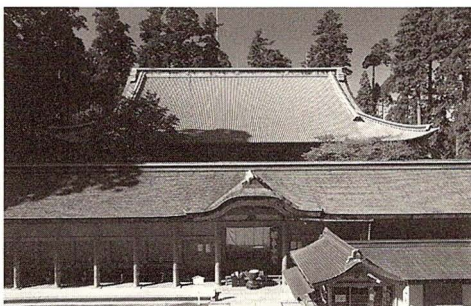
京戸 全般的に私たちの先代くらいまではわりとお寺の敷居を上げてきたのですが、今の若い住職たちはそれを下げて地域密着型にしようという機運があります。お寺でのイベントも盛んに行われています。増上寺さまをお借りして毎年「向源」というイベントも開催していますよね。自然とお檀家さんとの間柄もフレンドリーになってきています。

——すでに問題になってきたお寺離れや墓じまいなどが、コロナ禍で加速する寺院も増えていきそうです。天台宗ではどう対応しているのですか？

京戸 自坊でいいますと、年間1%が離檀しているという状況です。家が遠い、後継ぎがないなど理由は様々ですが、10年で考える

天台宗 とは

比叡山延暦寺
根本中堂



【天台宗の基礎知識】

開 祖 最澄（伝教大師）

開 宗 806年

寺院数 3323カ寺

信徒数 1,533,998人

参考 令和元年『宗教年鑑』の天台宗系の寺院数4482カ寺、
信徒数2,922,899人

主な経典 法華経

独自の行事 ^{さんげえ}山家会 最澄の忌日（822年6月4日）に修する法会

霜月会 智顗の忌日（597年11月24日）に修する法会（天台会）

大般若転読会 国家安穩、家内安全、厄難消除などを祈願する
法会。『大般若波羅蜜多經』600巻を転読する

主な名僧 円仁（794～864年） 源信（942～1017年） 天海（1536～1643年）

主な寺院 延暦寺 妙法院（三十三間堂） 三千院 寛永寺

輪王寺 中尊寺 善光寺大勧進など

起源 中国の僧侶智顗（538～597年）が晩年過ごした杭州の天台山で過ごし、
天台大師と呼ばれ、かつてその教えは天台教学と称された。

教 え 第一 全ての人は皆、仏の子供とした（悉有仏性）

第二 悟りに至る方法を全ての人に開放した

第三 自分自身が仏であることに目覚める

第四 一隅を照らす

と1割の檀家さんが離れていきますので、かなり大きな数です。

これは早急に手を打たないといけないと思いい、新聞広告を出したところ、すぐに50件の申し込みがありました。しかしその後、樹木葬などのブームが訪れてからは、いくら広告をかけても1件も申し込みはなくなりました。先々を見れば大変不安です。現在、東京がそういった状況ですので、時間をかけてこの流れが地方に行くものと思っています。

坂本 うちは東京の郊外なので比較のお墓が大きいのです。墓石店から「もっと小さくしていきませんか」とさんざんいわれてきたのですが、見た目も寂しいので渋っていました。しかし弟子がインターネットを通じたいわゆる派遣僧侶で葬儀をした際に、「若い世代はお墓の種類にはまったく興味がない」と実感したそうです。昔の様に先祖代々といった

ような考えではなく、自分が生きている間の30年くらいをキープできれば後は何でもいという感じだと。ここは考えを改めなければと思い、新たなタイプの墓石も設けるようになりました。

——なるほど。

坂本 ただ日本人全員が寺の墓地に入らなければならぬ訳ではないので、基本的にはお寺に求めて来られる方を大切にしなければならぬ。流出する先ばかりを見ていてはお寺の本来の役割からは外れていってしまうと思っています。

つまり、日々の教化が大切なのですけれども、その点で浄土宗の同称十念はいいですね。自然と教化につながる。うちで真似しても、うまく揃わないのですよ。まず合掌がそろわない。浄土宗ですと「同称十念」って言うとうと自然と手を合わせられますものね。あと、

木魚が檀家さん一人ひとりの席においてあつて一緒に叩きながら唱えられるのもいいですよね。あれはすごい一体感を感じました。

——浄土宗では当たり前ですが、決して当たり前ではない、のですね。

木内 檀家さんが意味を知ったうえで法要に参加できるって、すごい魅力ですよ。現代の方って説明と納得を求めている人が多いと思います。私はお葬式の時にも折々で説明をするのですが、あまり説明しすぎると厳肅な雰囲気も壊れることもあるので、バランスが難しいとは思いますが。

——最後に、檀家さんから「住職、人は死んだらどうなるのですか」と聞かれた時は、どうお答えになられていますか。

坂本 私はまだ死んでいないので「わからない」と、まずは言うと思います。その後に続け、「このお経にはこう書いてある」とお伝

えています、最後には「報恩の意をもって自身の中で生き続けてもらう努力をしましょう」と言うと思います。

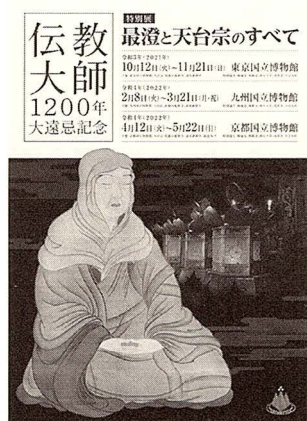
京戸 質問の際の状況によって答えは変わってくると思いますが、両親を亡くした時などの葬儀であれば「あなたの中にいる」と答えます。

こんなときお父さんでしたらどうするかなとか、いつもでしたらお母さんが優しく声をかけてくれたのにな、とかそう思った時に、もうすでにそばにいないではないですか。「死にはせぬ どこへも行かぬ ここにいる たずねはするな ものはいわぬぞ」（一休禪師）、あなたの中にもお浄土があり、阿弥陀様がいらっしゃるのです、と。

木内 基本的には、極楽浄土に行き、修行して成仏すると説きます。それは浄土宗と変わりません。ただ、天台宗では西方十万億国土

の極楽浄土も娑婆世界も、私たちの心の中にあると説きます。したがって、亡くなった人の心にも、残された人の心にも極楽浄土があり、亡くなった方はいなくなってしまうのではなく、皆さんの心の中の仏さまとして生き続けますよ、と説いています。

——このシリーズの最初に天台宗さんにご登場いただきましたが、色々知らないことばかりでした。大変ありがとうございました。



伝教大師 1200 年大遠忌記念

特別展「最澄と天台宗のすべて」

天台宗は、2012年4月1日から2022年3月31日までの10年間を、「祖師先徳鑽仰大法会（そしせんとかさんごうだいほうえ）」の期間としており、2021年6月には「宗祖伝教大師最澄1200年大遠忌」を迎える予定となっています。

本展覧会は、最澄1200年遠忌の節目を期に、2021～22年にかけて、東京、京都、九州にある国立博物館の3館において開催、天台宗の総本山である比叡山延暦寺をはじめ、全国各地の天台宗諸寺院等が所蔵する国宝、重要文化財含む貴重な寺宝を一挙に紹介する貴重な機会となります。また、開催各館ではその立地を活かし、地域性にも重点を置き、各々特色ある展示となるよう意図しており、その競演にも注目いただきたいと考えております。

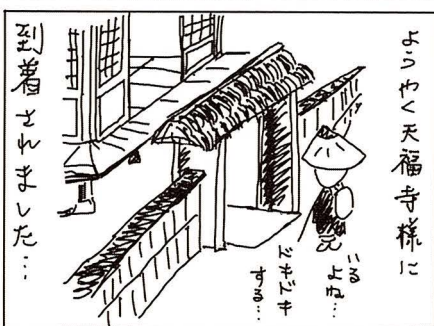
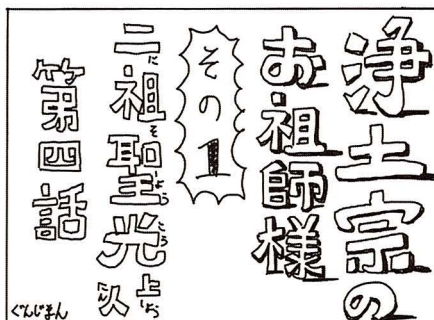
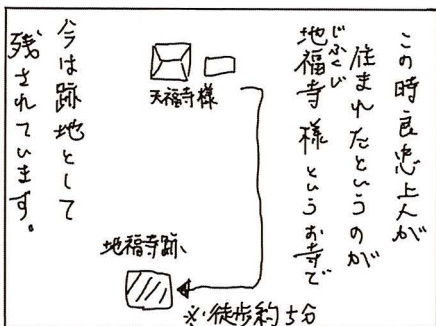
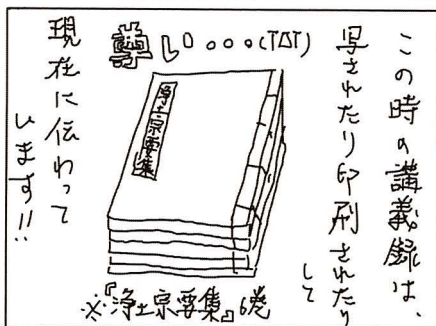
【会期・会場】

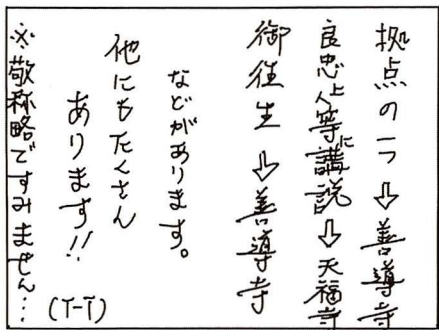
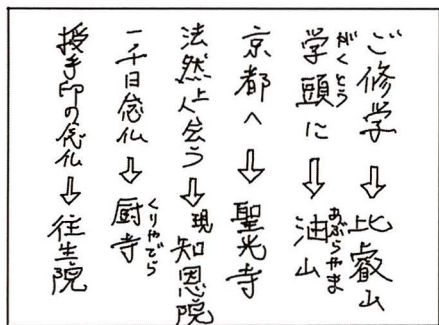
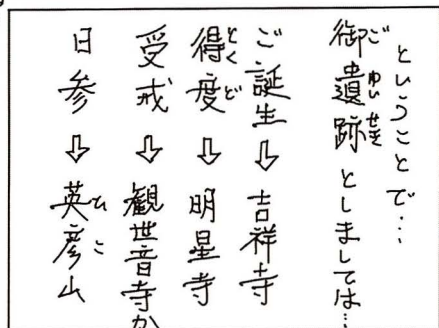
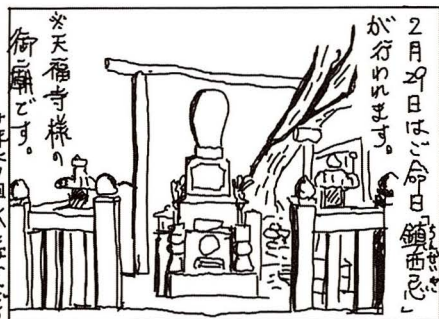
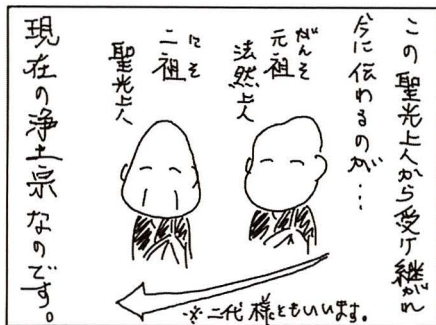
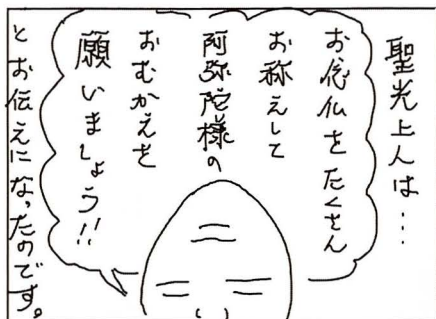
東京国立博物館 2021年 10月12日(火)～11月21日(日)
 九州国立博物館 2022年 2月8日(火)～3月21日(月・祝)
 東京国立博物館 2022年 4月12日(火)～5月22日(日)



くんじまん 1978年千葉県生まれ。

浄土宗のお坊さん。





式内親王 遺文子

連載
小説

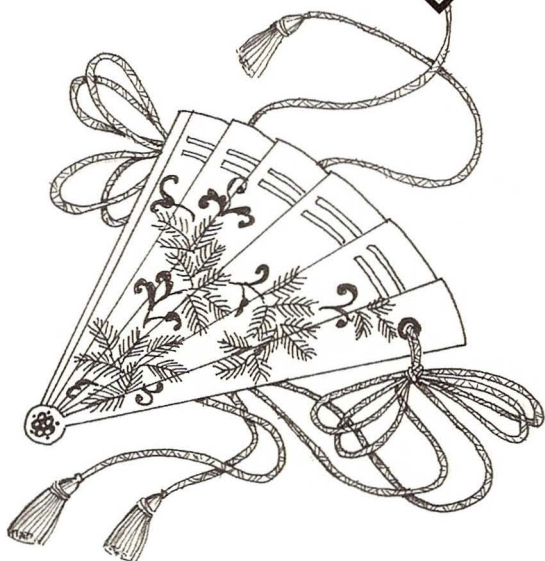
その
2

王

絵

石丸晶子

啞々砂



いしまる・あきこ 1935年東京生まれ。
東京大学文学部、同大学院卒業。近代文学
を専門とするが、日本古典の著作も多く、
1991年、『式内親王伝』（朝日新聞社）
で紫式部文学賞を受賞。東京経済大学名誉
教授。著書に『お手紙からみる法然さま―
そのお人柄』短編小説『百影の使者』（こ
もに浄土宗出版）など多数。

私が齋院を退下した時、皇位は後白河―二条―六条そして高倉天皇へと移っていた。しかし、この間ずっと、「治天の君」として清盛とともに政治を執り行っていたのは父法皇後白河である。

齋院を退下した嘉応元年（1169）はまさに平家が繁栄に繁栄の坂を上っていくただ中で、天下無敵と誰もが思ったあの平家一門が、わずか十余年後には木曾義仲の軍勢に追われて都を落ちてゆき、幾程もなく壇之浦で滅亡してしまうとは、あの頃、いったい誰が思い描こうぞ。

生涯を振り返ろうとしている今、平家が繁栄をかさね誇ったあの日々のことを、やはり書き留めなければならないと思う。

私がまだ齋院御所にいた時代から、私たち五人の兄弟姉妹の母藤原成子への父後白河法皇の愛は冷め、母は実家三条高倉第に引き下がっていた。母成子に替わって父の愛を一身に集めていったのが清盛の近親平滋子様で、

このお二人の間に父法皇の第七子である皇子憲仁親王様（ご誕生になると、私が齋院を退下する前年の仁安三年（1168）二月、幼い六条天皇は退位させられ、八歳になった憲仁親王が高倉天皇として即位された。

と、父法皇はいかにご自身の寵愛深くともご身分は女御（妻）で中宮（皇后）の位にはなかった滋子様を、いきなり高倉天皇八歳の御母として皇太后にされたのである。父法皇四十八歳、滋子様は二十八歳であられたと思う。高倉天皇ご即位の月には、都の大半を焼き尽くした大火があったことを思い出す。その惨状の中でのご即位であった。

清盛の長女平徳子様十六歳が父法皇の猶子となつて入内（天皇の妻となるために内裏に入ること）され、翌日、高倉天皇十一歳の女御となられたのは、私が退下して二年後の承安元年（1171）十二月であった。華麗を極めた入内行列（嫁入り行列）に都中が賑わった。その湧きかえるような賑わいを、私は退下後暮らしはじめた四条殿で聞いてい

た。

父後白河法皇と皇太后滋子様が牛車ぎしやを連ねてしばしば清盛の別邸に赴かれたり、さらには平家の神を祀る安芸あきの厳島神社にお二人揃そろって参詣さんけいされ、平家は賑々しくこの御幸みゆきに随行ずいこうしたなどという前代未聞の騒ぎを、侍女たちが私に齎もたらしたのは、高倉天皇の女御にようごとなられた徳子様が、翌年早くも中宮ちゆうぐう（皇后）の位に就かれた日々であつたろうか。

思い出せば、あの日々、都を騒がせたのはそればかりではなかった。摂関家せつかんけと新興勢力平家との争い、また延暦寺・興福寺・高野山・神護寺・根来寺ねくらでう・日吉神社ひよしんじやそれぞれに、貴族社会を巻き込んだの内紛があり、対立があつて、都中が騒いでいた。

とにかく、平家大繁栄の中、どこもかしこも世間が騒がしかったのである。

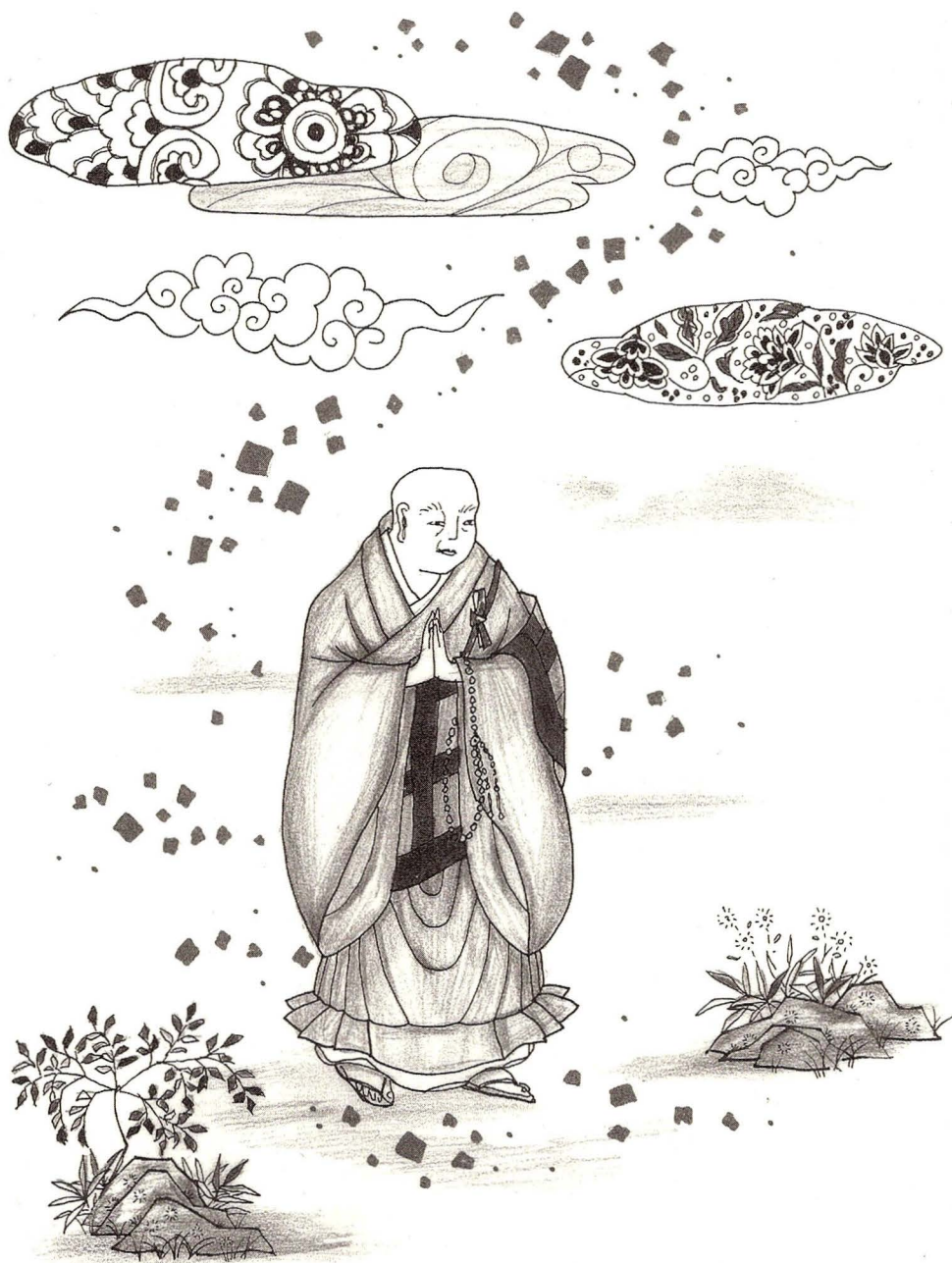
そうした中、紫野むらのの齋院御所から世間に移つてきた私自身はいえ、御簾みすに囲まれた座所ざしょで琴を弾き、源氏物語などの物語を讀み、藤原俊成から歌を学び、薫香焚き染めた

部屋にこもつて琴を弾いては気晴らしをする明け暮れであつた。

私の二人の姉上や二人の弟たちはそれぞれ別の邸や仁和寺に住んでいた。長姉の殷富門院いんぷもん亮子様などは公卿たちと歌会を催したり香合かうの会を催したり、またしばしば父法皇ともども公卿たちに招かれてはご身分に応じた集いを楽しんでおられたようだけれど、退下以來、とかく病み勝ちであつた私は、公卿たちからの誘いがあつても出向く気持ちになれず、ずっと引き込んでいた。平家が榮華を極める中で歲月だけが過ぎていった。

真理探究の苦悩の中、一切経を讀破されること三度。苦行に苦行を重ねる二十五年の果て、師父法然房様が遂に、一切衆生救済の仏の御心と浄土往生の道を見出されたのは、建春門院皇太后平滋子様のご在世中で、世はまさに平家が榮華を極める承安五年（1175）の春であつた。

この日に至るまでの苦悩と、ついに夜明けが訪れた瞬間の喜びを、師父ご自身から私は



うかがっている。

叡山で修行と苦悩に明け暮れた日々を、師父はただ「叡山では出離の道に迷い、一切衆生救済の道を求めて、心身安からぬ歳月を送ったのです」とごく簡潔に仰せられるだけだけれど、私には分かっていて。出家した御方が「出離の道に迷う」とは、そのご存在の根底を揺るがす御苦しみであつたということ。「心身安からぬ歳月」であつたとは、己が行く手の先が見えぬ暗黒の歳月であつたということ。

私は先に、あの日々のことを「平家全盛の世であつた」と簡単に記したけれど、その一枚下をめくれば、都とその近辺はしばしば飢饉や大火、地震に見舞われ、叡山はじめ寺や神社の争乱が日ごとに起る世であつたから、侍女たちが齎す洛中のうわさでは、町の辻々に棄民が蠢き、物乞いの途中で孤児たちが行き倒れ、賀茂の河原には腐臭を放つて死体が打ち捨てられていた。

公家といつても、平家以外で面子めんつが保てる

暮らしのできるのは摂関家と院の近臣たちぐらいである。

公家とはいえ末流の者ともなれば、暮らしに困窮し、覆面した群盗の棟梁となつて余裕のある家を襲い金品を奪い去る、そんな世情のうわさが頻発する時代であつた。

叡山にあつた師父はこのような世の姿を、早く保元元年、御年二十四歳の日に直接見聞されたという。この時、師父はその師、叡空上人の許しを戴かれて山を下り、嵯峨の清涼寺に七日間参籠されたけれども、そこで市井に生きる庶民の悲惨な姿を直接ご覧になつたのである。清涼寺には苦しみ喘ぐ下層民が仏の救いを求めて群がり集まっていた。彼らの姿に師父は強い衝撃を受けられたという。叡山で学ばれた仏の救いと、社会の底辺で喘ぎ苦しむ庶民との間の乖離に衝撃をお受けになつたのであつた。この時の苦悩を、師父は後にこう記しておられる。

阿弥陀仏は造寺造仏を以つて功德とし、往生への要件とされるのであろうか。智慧あり

才能のあることが往生への要件なのであろうか。学識あることが往生への道なのであろうか。又、戒律を守ることが要件なのであろうか。

すると殆どの者は仏の国へは迎えられないことになる。仏の慈悲とはいったい何なのであろう……。

この煩悶を抱かれた師父は、万民救済の仏の教えを求め、南都に下り、各宗派の碩学たち道求められた。その後さらに十余年、師父は諸々の碩学に教えを乞われ、それまでの仏教によれば前世の悪行によつて仏の救いからは見放された民、と見捨てられた衆生の上に、仏の救済は真実無いのであろうか、仏の慈悲とはいったい何なのか、と苦悶された。寢食もままならぬ暗黒苦悩の歲月が師父の上を通り過ぎて行った。

そして二十五年。遂に師父は魂の夜明けを迎えられたのである。

承安五年（1175）、師父四十三歳の春であつた。

この頃、二十七歳の私は退下後暮らししていた四条殿から母成子がいる三条高倉第に移り、退下以来の引きこもった暮らしを続けながら、日ごとに高まる平家榮華のさまを侍女たちから聞いていた。光源氏の世の華やいで恋多き宮廷社会は遠い昔のことであり、私自身は殿方を恋する心というものを終ぞ知らぬ年月を、ひっそりと送っていた。

あの頃、出家して僧となるべく幼いうちから園城寺に預けられていた二歳年下の弟以仁は、隠密裏に寺を出て還俗し、私と同じく、母成子が住む三条高倉第にいた。しかし互いに暮らす対の屋（棟）が違い、以仁が無聊をかこっているという話を侍女が時には齎していたけれど、この弟が、ひそかに平家打倒の策をめぐらせているとは知らなかった。

承安、安元と過ぎ、安元二年（1176）三月、後白河法皇五十の賀が祝われた。

ずっと邸に引きこもった暮らしを続けて二十八歳になった私は、父法皇五十の賀宴の日の歌を献上した。

動きなく なほ万代を 頼むべき
はこやの松の 峯の松風

不老不死の仙人が住むという藐姑射の山にお住まいの父上でいらつしやいます。その御代にも長寿にも限りがありません。私どもはみな、そんな父君から吹いてくる峯の松風により恃み、これから後も万代にわたつて、大船に乗った安心感のうちに暮らして参るにとでございます。

しかし、この祝いのわずか四か月後、花の生涯を送つておられた建春門院平滋子皇太后様が三十五歳のお若さで逝去されたとは。

思えばこのご逝去が、栄華を極める平家が急坂を転げるように転落してゆく第一歩であつた。滋子様ご在世中は、この最愛の御方への遠慮から、平家の繁栄を如何に苦々しく思召されてもその要望を退けることに遠慮があつた法皇は、滋様が逝去されるや、同じ

年の暮れの除目で清盛の三男知盛の希望を退け、ご自分の近臣二名を蔵人頭（秘書官長）に任命されたのである。

これを初めとして、一門が希望することを次々に法皇は拒否していかれた。

幅を狭めて言えば、建春門院が逝去されて以後に始まつたこれらの出来事こそが、かつて歴史が経験したことのない凄まじい乱世の始まりであつた。

私たちの母藤原成子が逝去したのは、滋様が逝去された翌年三月である。その悲しみのさなかにあつた翌四月、安元の大火として今に知られる大火災で都の三分の一が焼亡した。私は三条高倉第にいたけれども、あの一夜の恐怖と混乱は今に新しい。

さらに六月になると、事は事前に清盛に密告され、西光が死罪に、俊寛らが喜界が島に流された鹿ヶ谷の事件が起きた。平家打倒を企てたこの事件の中心にいたのは父後白河であるという。

鹿ヶ谷の事件は、平家の栄華が万代までも

続くと思っていた多くの都びにとつて、青天の霹靂であつた。安元三年（1177）八月、元号が治承に改められたのは、これらの忌まわしい事件を一新するためであつた。

翌治承二年冬十二月、高倉天皇の中宮平徳子様が天皇の第一皇子言仁親王（とよひとしんのう）安徳天皇を、ご安産になり、平家は喜びに沸きかへつた。言仁親王御誕生によつて力を得た清盛は、法皇を鳥羽殿とばどのに幽閉、政治を彼一人で仕切り始めた。

治承三年（1179）のことである。

二十五年に亘る魂の暗夜が一新され、新生の喜びをお迎えになつた師父が、このみ教えを内乱の世に苦しみあへぐ万民にお伝えになるため叡山を下り、東山吉水ひがしやまよしみずに庵を持たれたのは、かかる平家繁栄のさ中であつた。

師父のみ教えは、下山される頃には御弟子法蓮房しんくう信空様のご縁によつて、まず平家の人々に浸透してゆき、平家とゆかりのある貴族たちに、中宮徳子様にお仕える女房たちに、天皇家の人々に、と急速に浸透し始めて

いた。

法皇の同母姉で私の伯母である上西門院じょうさいもんいん統子様が、七日間の説戒を師父からお授かりになつたのは、師父が吉水の草庵に住まわれて三年ほどになる治承三年（1179）の夏で、今記したけれど、この年は清盛が法皇を鳥羽殿に幽閉したその年である。

この頃すでに、師父のみ教えと師父が高徳の聖ひだりであることは、乱世にあへぐ庶民たちにも次第に、そして急速に、伝わり始めていた。棟違いではあつても同じ三条高倉第に暮らしている弟の以仁が、この邸を脱出して園城寺に向かい、平家打倒の令旨を全国の源氏に発したのは翌治承四年四月であつたが、このことを人々が騒ぎ出すまで私は知らなかつた。以仁の住む棟に、夜、人の出入りがあることは知っていたが私には関わりのないことであつたし、何かと騒がしい世情の中、男たちの世界には関わりたくなかつた。私は三条高倉第に息をひそめるように暮らしていた。

（つづく）

	仏教関連	出来事	文化関連
	※僧兵（延暦寺、興福寺等） の焼き討ちと強訴が相次ぎ、 1165年までに園城寺は 4度焼失す	洪水、疫病流行、天下飢饉	
		京都大火（1146、48、52、66にも）	
		洪水、疫病流行、飢饉	
		九条兼実、誕生	
		大暴風雨、洪水で宇治橋流失	
		保元の乱	
		平治の乱	
	重源、入宋（以降都合三度）	平清盛、太政大臣に	
	栄西、入宋（以降都合二度）	京都大火	梁塵秘抄
		京都大火	
		鹿ヶ谷の密議 安元（大地）大地震、京都大火	
		京都大火	
	平家、東大寺と興福寺を焼く	福原遷都 各地で源氏挙兵す 京都辻風	
		{ 平清盛64歳で逝去 疫病流行、養和の大飢饉	
		{ 平家都落ち。木曾義仲の軍勢入京す	
	東大寺大仏開眼供養	壇ノ浦の戦い 平家滅亡 元暦大地震	
			千載和歌集
		九条兼実、受戒念仏開始	
	栄西、臨済宗を広める	九条兼実、関白に（～96）	
		後白河法皇、受戒、66歳で崩御	
	興禅護国論（栄西）		
	幕府念仏宗を禁ず		
		九条兼実、出家	
	比叡山衆徒念仏停止を訴える		
			新古今和歌集
	重源、81歳で遷化		
	親鸞、越後へ配流	九条兼実、逝去（承元元年）	
			方丈記

メモ2

天災や疫病に見舞われた京都の地には死体が溢れていて仁和寺の隆義法印が死者の額に梵字の阿字を書いて供養したが、2ヶ月間で京の東半分だけで4万2300人余にのぼったという。（『方丈記』より）

法然上人・式子内親王時代の出来事 (編集部編)

年(西暦)	年(和暦)	法然上人	式子内親王	
1133	長承2	誕生		
1134	長承3			
1138	保延3			
1141	保延7・永治元	菩提寺へ		
1147	久安3	比叡山へ		
1149	久安5		誕生	
1151	久安7・仁平元			
1156	久寿3・保元元	釈迦堂参籠、南都へ		
1159	保元4・平治元		斎院卜定	
1167	仁安2			
1168	仁安3		高倉天皇、8歳で即位	
1169	仁安4・嘉応元		斎院退下	
1171	嘉応3・承安元		平徳子、16歳で入内	
1175	承安5・安元元	専修念仏(開宗)		
1176	安元2		後白河法皇、50歳の祝賀 平滋子、逝去	
1177	安元2・治承元			
1178	治承2		安徳天皇、誕生	
1179	治承3		法皇を鳥羽殿に幽閉	
1180	治承4		安徳天皇、即位	
1182	養和2・寿永元		法住寺萱御所へ移住	
1184	寿永3・元暦元		洛中八条殿へ移住	
1185	元暦2・文治元			
1186	文治2	大原問答		
1187	文治3		師父法然(55歳)と対面	
1189	文治5			
1190	文治6・建久元	東大寺で三部経講説		
1191	建久2		白川押小路殿で出家か	
1192	建久3			
1197	建久8		大炊御門殿へ移住	
1198	建久9	選擇本願念仏集		
1200	正治2		真観房感西、逝去	
1201	正治3・建仁元		逝去(53歳)	
1202	建仁2			
1204	建仁4・元久元	七箇条起請文		
1205	元久2			
1206	元久3・建永元	住蓮、安楽事件		
1207	建永2・承元元	四国へ配流		
1212	建暦2	一枚起清文・往生		

メモ1

法然上人在世の1133(長承2)年から1212(建暦2)年までの80年間で天皇即位は9回ながら改元が30回。飢饉、疫病、天災、戦などの凶事清浄のための改元が多かった。

名 和 清 隆

地域社会における
多様性と「共生」



微

風

吹

動

近年、私たちの身の回りの生活空間で、外国の方々を見かけることが珍しくなくなりました。埼玉県中部の住宅地にある自坊の近所には、外国の方々も通う教会が10数年前からあるし、最近、中国人留学生のための語学学校ができた。また駅や近所のスーパーで頭にベールを巻いたイスラム教信者の女性の姿を見かけることも、珍しいことではなくなってきました。

2019年時点では、在日外国人の数は約289万人であり、日本の人口の2%以上（約50人に1人）を占めている。ちなみに国籍別の人口をみると、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、ブラジルの順で多く、ここ数年ではベトナム人の増加が顕著となっているようだ。

このように現在では、外国から来た人々との「共生」が、地域社会における大きな課題となっている。外国から来た方との共生において大切なのは、もちろん言葉の問題であるが、それとともに大切なことの一つは、彼らの文化や風習、また宗教を理解することであろう。

それぞれの宗教によって決まりがあるのは有名。例えば、イスラム教ではお酒を飲むことが禁じられている。では、イスラム教徒の方を家に招いたとして「お酒を出さなければ問題ない」とかという、注意すべきことはそれだけではない。実はアルコールそのものが問題視されるので、アルコールを含むミリンもダメ。したがって、ミリンを用いた日本食（煮物など）、おかきなどにも注

なわ せいりゅう 1972年埼玉県桶川市生まれ。埼玉教区浄念寺住職。早稲田大学第一文学部卒業、大正大学大学院博士課程満期終了。浄土宗総合研究所研究員、淑徳大学、大正大学非常勤講師。専門は宗教学。

意が必要である。厳密にいうと、醤油も発酵食品で微量なアルコールが含まれるので、注意が必要になるそうだ。

このような宗教による決まり事が、生活の思わぬところに影響を与える場合もある。下の2枚の写真を見比べてほしい。おなじみのマヨネーズ、キューピーのロゴマークである。このロゴマークは、可愛いキューピット（天使）がモデルとなっているが、左の写真が日本でおなじみのマーク、右はアメリカや東南アジアなどで広く使用されているものである。

これらのマークの違い、分かりますか？

全身であるか、上半身のみであるかの違いもあるが、注目すべきは、背中の羽が生えているか、いないかである。実は、海外でのキューピーちゃんは羽を取られてしまっているのである！

ではなぜ、海外において、キューピーちゃんの羽が取られてしまったのか？実はこれには宗教的な理由が関係するのである。このマークが初めて登場したのは、2013年マレーシアでのこと。マレーシアではイスラム教が国教とされ、人口の6割以上がイスラム教徒である。マレーシアでは以前よりキューピーマヨネーズが販売されていたが、ある時「あれっ？よく見たら、キューピーちゃんって天使だよな？不適切だよ！」と問題視されてしまった。なぜ「不適切」



日本



KEWPIE

アメリカ

とされたかという、イスラム教では、神（アッラー）や神の使いである天使を絵などで表現することを禁じられているからである。このことをきつかけとして、海外においては宗教的な事情を配慮して、日本と異なる「羽のないキューピーちゃん」が使用されることとなった。

このような例を見ると、「私たち日本人から見たら、なんか変だよな」「宗教的なことで、日常生活が制限されるって理解できない」と思う方もいるかもしれない。しかし、よくよく考えてみると、私たちの身の回りには、宗教的な理由による日常生活の制限がたくさんある。例えば、「友引の日には葬式をしない」「ごはんに箸を立ててはいけない」「おかずを箸同士で渡してはいけない」「北枕で寝てはいけない」など、挙げればきりが無い。

こうした習慣は日本人にとっては「当たり前」だが、日本人以外には、「奇妙な習慣」に映るであろう。でも日本人にとっては、「大切にすべきもの」なのである。

このように、出身の国や宗教によって、それぞれ大切な価値観というものとは異なる。この「違い」をお互いにしっかりと理解し、相手の大切にしている価値観を尊重することが、多様化している地域社会での「共生」の第一歩なのだと思う。

第四回

東海道(2) 舟渡しと徒歩^{かち}渡し

森清鑑

江戸 日本の街道探訪

家康の
全国道路網
造り

東海道で舟渡しが実施された川は、六郷川（多摩川）、馬入り川（相模川）、富士川、天龍川、それと今切の渡し（浜名湖）、七里の渡し（宮から桑名へ伊勢湾岸運行）…である。

これらの川の渡し口には、舟会所が設置されており、旅人たちはそこで渡し賃を支払って舟に乗った。

料金は、

旅人一人10文。

馬付き（本馬一駄口付き）15文。

乗り掛け荷物12文とある。

（馬の両側に荷物を渡し、さらに人一人）

一文約30円とすると、人一人3000円である。

広重は、「本郷の渡し（多摩川）」大名行列の舟渡りの場面を描いている。画面では10艘の舟が行き交いしており、舟には20人余りの武士が乗り、ぎゅうぎゅう詰め状態。この大名行列は六郷川を渡り、川崎宿に向かっていているようだ。川崎宿の方

では庶民が土下座して迎えている。一方、川の手前を見ると、まだ残りの武士が行列のまま待っている状態。大名行列の舟渡りの図は珍しく、壮観である。

徒歩渡り

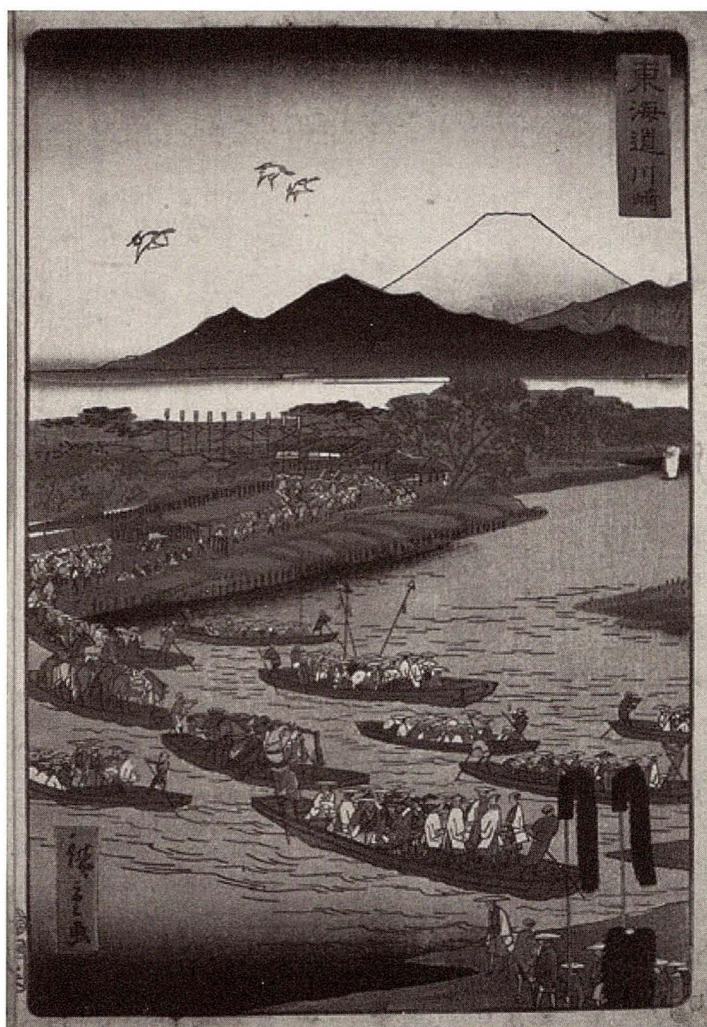
かわごしにんそく

川越人足に担がれて渡る。これが徒歩渡り（歩いて渡る）である。酒匂川、興津川、安倍川、大

井川。いずれも広い河川敷を持った河川に適用された。家康は江戸防衛上の軍略から、これらの川の渡船も禁止した。その後、江戸が安定し、そうした考慮が不要になったと思われたが徒歩渡りは中止されず、なんと明治維新まで続いたのである。

徒歩渡りの方法には3種ある。まず、肩車越。かたぐるま

これは人足が旅人を肩車して川を渡る方法である。二つ目は、輦白越（輦台＝連台）。客を輦台に乗せ、人足が担いで渡る方法である。三つ目は手曳越と言い、人足が客を誘導して渡る方法。



東海道名所風景 14：広重：川崎宿：本郷川を渡る大名行列

輦台越し^{れんだい}

輦台^{れんだい}は5種の型が決められている。まず、平輦台（平板の並連台一人乗り）、または（並連台二人乗り）、半高欄輦台（半手すり二本棒）、中高欄輦台（四方手すり二本棒）、大高欄輦台（四方手すり四本棒）。輦台の重さと大きさに応じて担ぎ手の人数は増える。費用は基本的に川越人足の数に応じて高くなる。

川札^{かわふだ}

川を渡るにはまず川会所で「川札」を買わねばならない。これは川越札^{かわごしふだ}または油札^{あぶらふだ}ともいい、人足一人を雇うためのチケットである。旅人は自分の条件に合わせて、川札を買う。

川札の値段は、その日の水深（水嵩^{みずかき}）によって決定される。このため日々、水嵩の定点観測を実施し、その結果、水嵩が人体のどこまできている

かによって五段階の価格設定がなされた。このため、川札の値段は毎日異なった。価格は次の五段階。寛政年間の設定では

一、股通（水が股まで）^{またどおし} 48文（約1440円）、

二、帶下通（水が下帯の下まで）^{おびした} 52文（約1560円）、

三、帶上通（水が下帯の上まで）^{おびうえ} 68文（2040円）、

四、乳通（水が乳まできている）^{ちちとおし} 78文（約2340円）、

最後が

五、脇通（水が脇まで来ている） 94文（約2820円）。

これ以上水嵩が増すと、危険のため川留め（川渡り禁止）と云うことになる（大井川、島田観光協会…一文30円計算）。

これが川越人足一人の値段である。これに輦台の種類によって決められている担ぎ手の人数を加

算して、必要な川札数が決定する。

渡り賃算出の基礎となる人足数の決定は、

肩車（かたぐるま）…川越人足の肩に乗るので川札

1枚（水が一定レベルを超えると手張り（補

助者）を要するので川札2枚となる）。

平輦台（れんだい二人乗り）…基本的に担ぎ手4人で川札4

枚。それに台札（輦台の使用料）に川札2枚。

計6枚。

平輦台（二人乗り）…担ぎ手6人、台札2枚で川札

計8枚。

半高欄輦台…平輦台（二人乗り）と同じ価格。川

札8枚。

中高欄輦台（四方手すり二本棒）…担ぎ手10人、手

張り（補助）2人の12人と台札（川札24枚分）

の川札計36枚

大高欄輦台（四方手すり四本棒）…担ぎ手16人、

手張り4人、台札（川札32枚）の計52枚。

したがって、大高欄輦台を所望し、その日の水みず

嵩かさが最高位の脇通わきどおしだと52枚×94文で4888文（約14万6640円）という途方もない値段になる。ということは、大名行列の川渡りに一体いくらの金がかかったことか。恐ろしい費用が想定される。

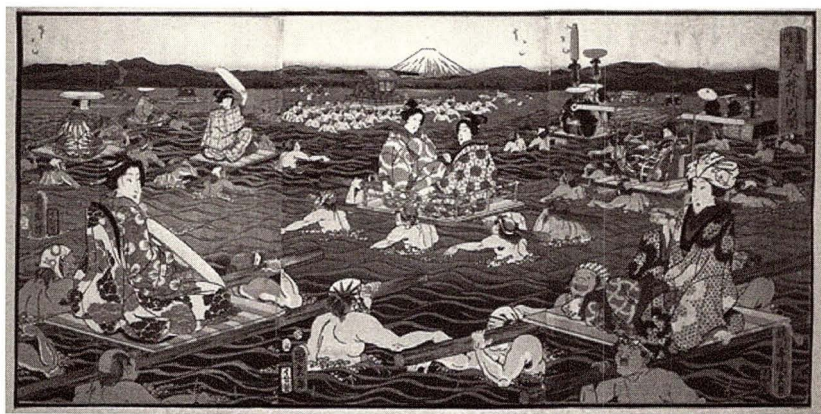
大井川を渡る

さて、それでは川渡りのモデルケース、大井川の光景を紹介しよう。大井川の徒歩かち渡しは、いわば東海道の名物。江戸時代の絵師はこぞってその様子を絵にした。

それにしても、歌川国久が安政4年3月に描いた、錦絵「東海道川尽 大井川の図」は、リアルでエキサイティングである。大井川は、まるで大海原のように描かれている。水嵩は川越人足の脇近くまで来ており、この日の料金は最高ランクに近いと思われる。絵の前面にご婦人を運ぶ輦台れんだい渡ししが強調されている。その後ろに殿様籠を乗せた

大きな輦台が見え、参勤交代の家来の輦台も混じっている。遙か先には富士山が映え、美しい自然の光景である。しかしこの絵のメインは女性に乗った輦台越の華やかな列にある。輦台に乗っているのはいずれもご婦人で、豪華な着物に身を包み、まるでファッションショー。輦台も出そろっており、一人乗り平輦台、杵付き輦台、二人乗りの杵付き輦台、旅籠ごと乗せている大型輦台と輦台のオンパレード。大きな荷物と一緒に輦台に乗っている大名行列の家来も見られる。

川越人足は皆、屈強な身体をしており、片手は輦台棒を担ぎ、一方の手は水を漕いでいる。その水漕ぎの手が3人、4人見事に揃っており、川歩きのリズム、バランスのプロを感じさせる。輦台の上では、悠然とキセルを吸っている女性の姿もあり、男を従えているかのような肝の据わった婦人のユーモラスな表情が印象的である。向かい合 わせに座るご婦人二人の輦台もあり、笠を被って



歌川国久：「東海道川尽 大井川の図」

いる女性、笠を手に振りかざし、日差しを避けているかのように見える女性の輦台も見える。いずれの女性も大井川の徒歩^{かち}渡りを大いに楽しんでいるかのようである。担ぐ川越人足の方も客が女性とあつて、元氣横溢の様子。

大井川を渡る大名行列

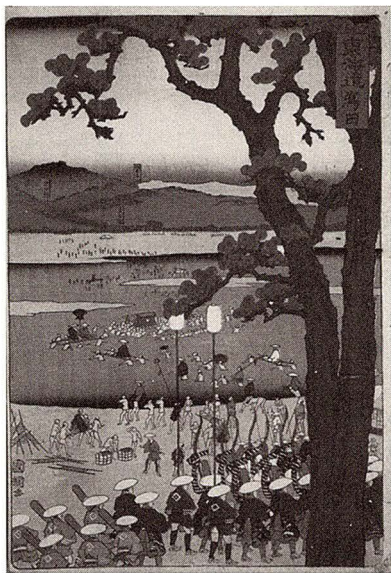
大名行列の川渡りともなれば、駆り出される人足の数も半端無い。大名行列の川渡りの実態を見事に描いているのが、芳盛の「大井川を渡る大名行列」の図である。その規模の大きさは凄い。一行は島田宿を出て大井川を渡り金谷の宿に向かうようだ。いずれの大大名であろうか。数えきれぬ程の川越人足が動員されている。殿様の豪華な輦も凄ければ、輦台も豪華。まるで広い大井川に人列の橋が出来ているかの様である。大勢の人足に混じって、家来が輦台、もしくは肩車で運ばれている。列の一番外側に人足が二列で並んでいる。

これは殿様の輦台の揺れを少しでも安定させようとする、人垣である。大名行列ともなれば、道具を乗せた輦台も多数。また長い毛櫓（鳥の羽などで装飾した櫓）だけを担いでいる人足の姿もある。渡り終えた行列は、次の金谷の宿に向かって急坂を上っていく。これがまた半端無い急坂でダイナミックな展開。参勤交代の行列が藩の權威を誇示する典型である。

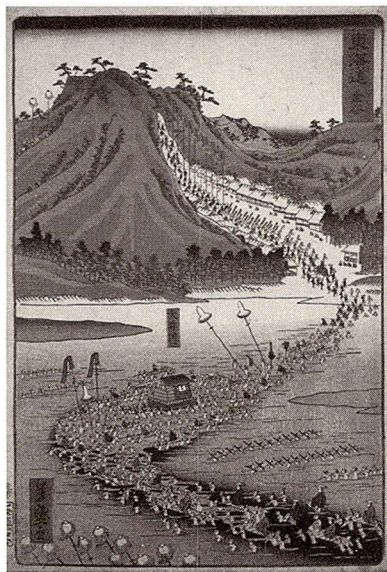
一方の国綱の絵は、川の手前で武士を肩車に乗せている姿や輦台に乗せて、しずしずと川に向かう姿、あるいは、行列のまま待っている様がりアルに描写されており、大井川渡しの島田宿側の姿が強調されている。絵にはないが待っている侍の手前に川会所（川札の販売所）や川越人足の待合所（番宿）がずらりと道の両側に並んでいるのだ。

川越人足市場の醸成

大井川徒歩渡りで栄えた島田宿。宿場から大井



東海道名所風景 63：国綱：大井川を渡る大名行列：島田



東海道名所風景 64：芳盛：大井川を渡る大名行列：金谷

〈お知らせ〉

毎年六月に開催しています公開講座ですが、本年は新型コロナウイルス拡散防止のため中止いたします。

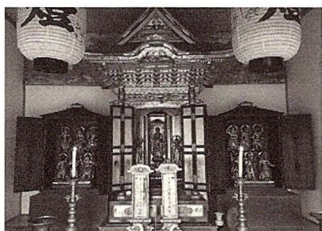
※来年の公開講座でお待ちしております。

川に向かって道の両側にずらりと川越人足が待機する番宿が並ぶ。一番宿〱十番宿。一体何人の人足がいたのか。このように徒歩^{かちわた}渡りは、川越^{かわごし}人足という新職業を生み出し、大きな市場を醸成することになる。また舟渡しも舟や船頭の増員につながった。東海道の「川の徒歩渡り」は、ひとつの文化となり、参勤交代の大名行列は、ここでも街道に大きな経済効果をもたらすことになった。

もり せい かん
1941年東京生まれ。大学卒業後ドイツ系
商社に入社。その後、海外情報、広告・マー
ケティング調査・分析、インフォメーション
オンデマンドサービス事業に携わる。廃棄
物関連調査 Mori & Associates 主催。

【薬師瑠璃光如来】特別御開帳

東谷健昭（長野・佐久 西念寺住職）



佐久・西念寺の薬師瑠璃光如来
令和3年6月3日（木）～9日（水）、
12時～12時30分まで

その折、檀家の発願により薬師堂が建立されました。
以来、6月に1日1時間だけの特別御開帳でしたが、今年は新型コロナウィルス終息祈願として7日間開帳します。なお、本年の参詣者には、災厄消除の「利剣の名号」塗念佛札の一筆箋をお配り致します。

安永2（1773）年、日本全国を襲った疫病（腸チフス）が蔓延、長野県佐久地方も大きな被害に遭いました。

「科研費採択の報告」

工藤量導（大正大学非常勤講師）

2021年度の科学研究費補助金・基盤研究（C）に採択されました。研究課題は「中国仏教における仏土論の源流をめぐる研究」です。さまざまな浄土のランク付けを行う「仏土論」は、実は中国仏教で始まった議論ですが、従来その起源がほとんど解明されていませんでした。その発生源とみられる東晋代から南北朝期の新出資料をもとに、いつ、どこで誰が関わり、どのような思想状況で仏土論が成立し、東アジア世界に展開していったのか、少しずつ明らかにしていきます。

みんなの境内

中村辨康師の「生」が読める！
『浄土』アーカイブのお知らせ
（編集部）

昭和10年5月より当法然上人鑽仰会発行の月刊誌『浄土』のバックナンバーが法然上人鑽仰会のホームページにて読むことができます。左のQRコードをお読みいただき、上のバーの浄土PDF一覧をクリック、読みたい号をクリックするとPDFで全ページが読みいただけます。
中村辨康師の「生」は昭和11年11月号の2ページです。



法然上人鑽仰会
ホームページQRコード

ホームページアドレス
jodo.ne.jp

編集後記

『法然鑽仰』という新聞(会報紙)が偶然見つかった。

当、法然上人鑽仰会から発行されたタブロイド版4頁の新聞で、昭和10年5月発行のこの『浄土』創刊号以前に発行され、2年間ほど毎月会員に送られていたようだ。

たまたま見つかった昭和11年3月20日発行の第14号の紙面に踊る見出しを並べてみると……。

南信教区の熱誠 講師派遣を依頼す

——中村講師一巡せん

東北に活躍する 本覚寺支部の近況

——発会式も愈々迫る

法然中心で進む 京都浄青の活躍

例会にいそしむ 鬱陵島支部の近況

谷山支部(鹿児島)が盛大な発会式を挙げると、当会の支部が全国に次々と設立されている様子がうかがえる。ちなみに鬱陵島とは朝鮮半島の島である。

そう、昭和10年に当会が掲げた「法然上人の人格と教え」を基本理念とする仏教復興運動、法然鑽仰運動は全国の浄土宗寺院に瞬く間に広がったのである。「5人の会員で支部を作る」という方針もあり、まさに平安・鎌倉時代に法然上人の教えが瞬く間に全国に広がった様子が再現されたといっても過言ではない。それには理由があるのだが、その訳はまた改めて詳しくお伝えしたい。

雑誌『浄土』

特別、維持、賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
 巖谷勝正(目黒・祐天寺)
 魚尾孝久(三島・願成寺)
 加藤昌康(下北沢・森巖寺)
 河本悠大(函館・称名寺)
 糸原恒久(川越・蓮馨寺)
 糸原勇慈(甲府・瑞泉寺)
 佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
 佐藤久雄(品川・願行寺)
 佐藤良純(小石川・光圓寺)
 東海林良昌(塩釜・雲上寺)
 高口恭典(大阪・一心寺)
 中島真成(青山・梅窓院)
 中村康雅(清水・実相寺)
 中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
 成田昌憲(世田谷・大吉寺)
 野上智徳(静岡・宝台院)
 長谷川岱潤(東京・戒法寺)
 藤田得三(鴻巣・勝願寺)
 堀田卓文(静岡・華陽院)
 本多将敬(両国・回向院)
 松濤泰彦(芝・寶松院)
 水科善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ jodo.ne.jp/

メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

さて、最初の見出しにある中村講師とは、中村辨康師である。今号の巻頭はこの中村師の書いた一文に寄せる若手僧侶の熱い想いの込められた記事である。(村田)

編集長
 編集部員

村田洋一
 斎藤晃道
 佐山哲郎
 青木照憲
 平井泰代子
 本原尧道

浄土 八十七巻 五月号

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 令和三年三月二十日
 発行 令和三年四月一日

発行人 佐藤良純
 編集人 長谷川岱潤
 印刷所 株式会社 晩印刷

〒一〇五〇〇一一

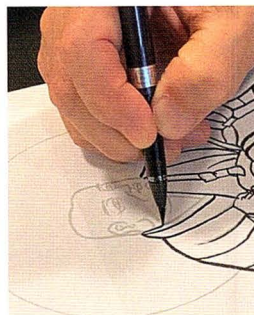
東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三三五七八六九四七
 FAX 〇三三五七八七〇三六
 振替 〇〇一八〇・八・八二八七

写経、写詠歌、写仏申込書

- 1 A4版の奉書の手本に筆ペンで直接なぞります。
- 2 写仏の仏画は仏師（前田昌宏師）のオリジナル。
- 3 写経は浄土宗日常勤行式です。
- 4 写詠歌は法然上人四季の和歌と宗歌「月かげ」他。



申し込み日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

お名前 個人 _____

寺院 _____ 教区 _____ 組 _____ 寺・院 _____ 寺院番号 _____

お電話 _____

ご住所 〒 _____

写仏(1セット6枚5組) 頒価:5,000円 _____ セット

写経(1セット12枚5組) 頒価:6,000円 _____ セット

※寺院名 () 入れる(無料) 寺院名 _____ () 入れない

※三奉請(関東)と四奉請(関西)をお選び下さい。() 三奉請 () 四奉請

写詠歌(1セット5枚5組) 頒価:3,000円 _____ セット

※送料、消費税は頒価に含まれます。同封の請求書でお支払い下さい。

※お届けまで2週間ほどかかります。

《お申し込みは本頁をコピー、ご記入の上、当会へご注文下さい》

法然上人鑽仰会

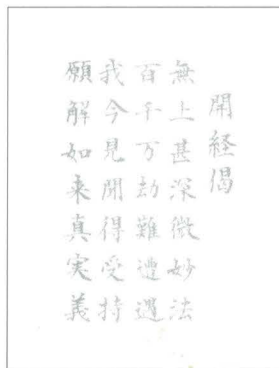
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階

FAX : 03 3578 7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

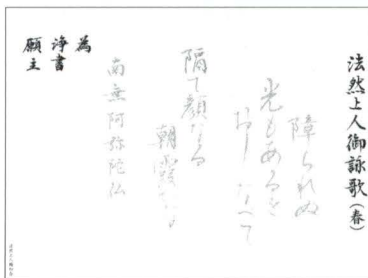
TEL : 03 3578 6947

写経・写詠歌・写仏 のご案内

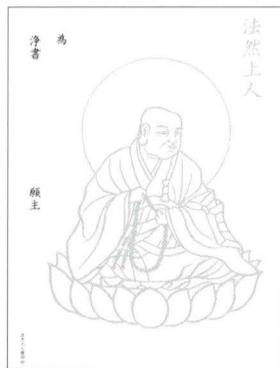
法然上人鑽仰会
からの
お知らせ



【写経】開經偈



【写詠歌】春の歌



【写仏】法然上人



●コロナ禍で在宅時間が多くなった檀信徒の皆さんに浄土宗の日常勤行、法然上人のお歌、そして法然上人の姿や仏様の姿を写していただけの写シリーズです。



写仏は前田昌宏師のオリジナル

- 写経は浄土宗勤行式で、お寺の名前を入れられ、三奉請、四奉請が選べます。
- 写詠歌は宗歌「月かげ」と法然上人の四季の歌。
- そして、写仏は浄土宗僧侶であり仏師である前田昌宏師のオリジナル原画を写せます。

《お申し込みは裏面へ》